

草津・四万温泉の旅 2022



2022年6月

旅のチカラ研究所 植木圭二

地球一周の船旅で知り合った仲間たちと群馬県の草津温泉と四万温泉に行ってきた。旅慣れたメンバーと温泉三昧の旅を楽しみ、その魅力を存分に味わうことができた。

■旅の計画

どんよりと曇った梅雨空の下、私が運転する車は草津温泉を目指して関越自動車道を走っている。助手席には私が師と仰ぐ鳩（にゅう）さん、後部座席には女性2人キキちゃん、ミッチちゃんが乗っている。この4人は地球一周の船旅で知り合った仲間であり、久しぶりの再会になる。

今回の旅は旅慣れたメンバーに草津温泉を存分に体験してもらおうと私が企画したが、私がしたのは宿を予約して行程表を作成しただけで、あとは“あうん”の呼吸になる。

草津温泉・四万温泉の旅2022 行程表		2022年6月17日 植木記	
日程	行程	宿泊	宿泊費用
6/21 火	<ul style="list-style-type: none">分倍河原駅2階出口に8時集合車は植木の白いベルタ4ドアセダン9時半に富岡こんにやくパーク到着こんにやくバイキング（無料）朝食の代わりにもなります軽井沢経由で草津温泉12時前に到着草津温泉街を散策、入浴、昼食草津は標高1200m、多少寒いかも	草津温泉ホテル櫻井 群馬県吾妻郡草津町 電話0279-88-1111 2部屋予約 草津温泉で最も高級なホテルですが 訳あり部屋で予約	12100円/人（2食付き）+入湯税
6/22 水	<ul style="list-style-type: none">10時に宿を出発草津近郊の観光（場所は要相談）四万温泉に15時～16時到着	四万温泉 積善館 群馬県吾妻郡中之条町 電話0279-64-2101 2部屋予約 千と千尋の神隠しのモデルになった宿	8800円/人（2食付き）+入湯税
6/23 木	<ul style="list-style-type: none">10時に宿を出発高崎駅12時に到着、キキちゃん下車他の方は都内か近郊まで送ります	参加者は、以下4人 キキちゃん、みっちゃん、にゅうさん、植木	

【事前に作成した行程表】

■個性派メンバーたち

参加メンバーは地球一周の船旅、ピースボートの旅で知り合ったメンバーなので、基本的には旅大好き、人間大好きの中中で、その中でも特に際立った人たちだ。

鳩さんの旅人生は40才の頃、仕事で海外に行ってから始まる。飛行機で出てきたスコッチウイスキーのミニチュアボトルに興味を持ち、その収集とスコットランドおたくへと進んでいった。

会社勤めを終えてから彼の本格的な活動が始まる。日本スコットランド協会に入り、スコットランドに十数回も渡りスコッチウイスキーの蒸溜所を巡った。そのために英会話を勉強し、70才を過ぎてから3度の海外語学留学をした。そして地球一周の船にも乗った。

人間関係を広げるためにライフスタイル研究会やサラリーマン文化芸術振興会に入会し、88才になった今でも大学の聴講生で、俳句会にも参加している。

キキちゃんは地球一周の船内で鳩さんが開催していた俳句教室の生徒であり、私が入っていた落語会の同門になる。彼女自身も話し方教室を開いたりして積極的な活動をしていた。

彼女はテレビのレポーターや結婚式の司会をやって、ビルを建てて2人の子供を育てたという。そのビルの経営だけでなく、自然で旬な食材を使う料理に造詣が深い彼女は、自前のビルで洒落た料理屋を開いている。その店に私と鳩さんが2年前に飲みに行った時に今回の草津温泉行きが決まったが、コロナで延び延びになっていた。

ミッチちゃんは、キキちゃんの船友で私と鳩さんとは今回の旅が初顔合わせだが、ピースボートの知り合いは直ぐに仲間になってしまうから不思議だ。

彼女から旅の話を聞くと、これがとんでもない。若い頃スウェーデンからインドまでヒッチハイクで一人旅をした。貧乏旅行で金がなくヨーロッパは教会で無料宿泊をお願いするのが常で、断られても軒下で野宿していると最後は入れてくれたという。それでもたまには氷点下での野宿も経験した。アジアに入ると物価は格安で金銭的な心配はないが衝撃的な体験ばかりで、人間が馬と同じように鞍を着けて荷物を運んでいることも、時には動物相手に四つん這いでケンカし、路上で並んで寝るといふ。なんと凄い体験談だ。

それを聞いて、私は沢木耕太郎の旅行記「深夜特急」に影響を受けたことを伝えると、彼女は「私は小田実（まこと）の影響を受けました」と言う。小田実は1958年に持参金200ドルで世界一周旅行に出かけ、体験記「何でも見てやろう」はベストセラーになった。沢木耕太郎はその約15年後にインドからロンドンまで乗り合いバスの旅をして深夜特急を書いた。

■こんにやくパーク

車は群馬県に入る。群馬県の特産物を蒟蒻（こんにやく）と答える人は少ないが、蒟蒻芋の生産はシェア9割以上ある。それゆえ蒟蒻をテーマにした「こんにやくパーク」がある。

この施設はとてとても評判がよく、もはや近くの世界遺産「富岡製糸場」を上回る人気ぶりだ。人気の秘密は入園料が無料、蒟蒻の製造ラインの見学ができ、各種蒟蒻料理が無料で食べ放題になっている。同行メンバーからは「このテーマパークは何で儲けているの？」と質問がある。私は「試食の後のお土産だよ」と答えると、「お土産といっても蒟蒻じゃねえ」とバカにしている。

江戸時代の中山道の軽井沢宿の次の宿場は沓掛宿だったので、信越線の開通により沓掛駅が出来た。そして沓掛駅は 1956 年に中軽井沢駅に改称され、以降その付近は中軽井沢と呼ばれる。

小諸市と軽井沢町の中に御代田町がある。その一部が分離し 1957 年に軽井沢町に編入したために西軽井沢という呼称が生まれた。現在はその御代田町まで西軽井沢と呼んでいる。

群馬県の西部の安中市には東軽井沢を名乗っているゴルフ場が 2 つもある。県境の碓氷峠から 15km 以上も群馬県内に入り込んでいるのに東軽井沢とは恐れ入ってしまう。

軽井沢町の北には浅間山があり、浅間山を越えた向こう側の群馬県の嬬恋高原を奥軽井沢と呼んでいる。確かに“奥”だが・・・、もはや名付けた人の度胸に敬服するしかない。

これで新、旧、南、北、中、西、東、奥まで軽井沢が出てきた。あとは何が出てくるのだろう。

■草軽電鉄の北軽井沢駅舎

軽井沢駅から草津温泉までの 55km を結ぶ草軽電鉄が 1915 年に開業した。残念ながら 1962 年に廃業するが、50 年近く最強の別荘地と最強の温泉地が鉄道で繋がっていた。もしも廃業しなければ、草津温泉には新幹線を利用して軽井沢乗り換えで行ける。歴史に“たら”、“れば”は禁物だが、私はそれが残念でたまらない。

その草軽電鉄の北軽井沢駅舎にやって来る。駅舎はリフォームされて真新しい塗装で外観は綺麗になっており、その前にはクワガタ虫を立てたような電気機関車が置かれている。本物ではないが、サイズや形は同じようなので当時の雰囲気が十分に伝わってくる。

鳩さんが「草軽電鉄に乗ったことがあるよ」とポツリと言葉を発した。私は草軽電鉄に乗った人に初めて出会った。草軽電鉄の廃業は 60 年前だが、鳩さんは現在 88 才だからそれは在り得る話だ。大人になってから乗ったのであれば記憶も残っているはずで、私はすかさず「是非、旅行記を書いて下さい」とお願いする。



【草軽電鉄の北軽井沢駅舎と電気機関車】

実は私はこの草軽電鉄の線路跡をたどる歩き旅を企画している。最強の別荘地と最強の温泉地の繋がりを当時の浪漫を感じながら歩いてみたい。そしてこの企画には歩き旅の好きなミッチャ人も乗り気だ。

■草津温泉街を散策する

草津温泉に到着する。そして温泉街の散策に出る。

バスターミナルがあって、東京からの直行バスがあることを話すと、女性陣は今度2人でバスに乗って来ようかなどと言っている。

バスターミナルの前には草津町役場がある。以前私は町役場の人に取材したことがあって、そのことを3人に話始める。町役場には温泉課という他の役場にはない組織があって、その温泉課が管理している源泉が6つある。それは白旗源泉、西の河原源泉、湯畑源泉、地蔵源泉、煮川源泉、そして万代鉦（ばんだいこう）源泉だ。今回の旅ではこの6つの源泉を体験したいと3人に話すと、是非やりたいという人、体力を心配する人、時間を心配する人と三者三様だ。ただ全員が何とか入りたいと願っていることは確かだ。

町役場の前には荻原商店という金物屋がある。これが冬季オリンピックでノルディック複合の金メダルを取った荻原健司、次晴兄弟の実家だと紹介すると、女性陣は急に写真を撮り始める。すると通りかかった観光客たちがその理由を聞いてくる。理由を話すとその人たちも写真を撮り始める。

単なる金物屋が観光名所になる瞬間を私と鳩さんは目撃する。



【荻原商店】

草津と言えば湯畑で、箱を階段状に配置させて高温の源泉を上から下に流して温度を下げている。こうすることで熱い源泉の成分そのまま温度を下げるができる。岡山県から来たキキちゃんは初めての草津で、湯畑に憧れがあったという。彼女は湯畑を見ながら涙を半分浮かべながら感激している。

私はもう少し感激してもらおうと湯畑の端にある岡本太郎の碑の前に案内する。岡本太郎は大阪万博の太陽の塔を設計した世界的な芸術家だが、実は湯畑も岡本太郎が設計した。碑には草津温泉に対する彼の想いが書かれている。書かれたのは1975年頃で、世界的芸術家なので造詣が深く常に世界を見ている。私の想いにも重なるものがあるので起承転結に要約して説明する。

【草津の未来を描く】

- 起：**現代人の生活は生産・労働では満たされず、レジャーや観光が世界的にも急速に発展する。
- 承：**草津は無数の可能性があり、健康や人間解放で心身を蘇らせる条件がそろっている。
- 転：**草津の現状は充分にその良さを活かしていない。古くから栄えた町ほど取り残されるが、草津はそうあってはならない。
- 結：**草津は日本全体の新しいレクリエーションセンターとして大きく発展すべきだ。その魅力が世界中の人々を惹きつけ、世界の草津となる大きなビジョンをもって町づくりを進めるべきだ。

岡本太郎



【湯畑 この湯の滝や池の前に岡本太郎の碑がある】

草津にはたくさんの飲み食い処があり、共同浴場はじめ入浴施設も多い。そのため安宿に泊まれば格安で草津を楽しむことができる。最近の若者や外国人は食事・入浴・宿泊が一体になった従来型の温泉宿に泊まらず、それぞれを別々に楽しむという傾向が強い。その方が費用を抑えられて、グルメで評判の人気店で好きなものを食べることもできる。山奥の温泉で魚貝類の刺身が出てきて興ざめすることもあるが、そんなことも避けられる。

一般的に観光地にある巨大ホテルは、収益を上げるためにホテル内に飲食店や売店、アミューズメントなど全てを用意する。そのために宿泊客はホテルから出なくなる。そうすると温泉街に人が行かなくなり、温泉地全体に活気がなくなる。その結果、温泉地だけでなく巨大ホテルにもお客が来なくなる。これが最近多く見かけるさびれた温泉地の姿である。

しかし草津温泉は湯畑を中心に温泉街に活気があるのでそうならなかった。やはり岡本太郎が示したように日本の新しいリクリエーションセンターになっているように感じる。

■草津温泉の湯巡り

私は草津温泉に浸かる前にその泉質を同行メンバーに説明する。草津温泉は強酸性で、酸性度を示す水素イオン濃度 pH は 2.0 前後、胃液よりも酸性度が強い。そのため五寸釘を浸けておくと 1 週間で消滅する。殺菌作用があつて外傷や病気を治す効果がある。昔から草津温泉は万病に効き、治らないのは恋の病だけとされているが、最近は温泉のリフレッシュ効果で恋の病も治してしまうらしい。キキちゃんは「恐るべき草津温泉よね」と言っている。

先ほど見て来た金物屋の荻原兄弟があるテレビ番組で「僕たちが子供の頃、怪我をして家に帰ると、直ぐ温泉に入ってこいと言われてました。すると面白いほど早く怪我が治るのですよ」と話していたと私が言うと、女性陣は「写真を撮って良かった」と話している。

草津温泉には18の共同浴場がある。かつて私はその全てを2日間で入浴したが、現在は観光客のモラル低下のためだろうか、“観光客の方もどうぞ”と開放しているのは湯畑周辺の3カ所だけになっている。とは言っても管理人がいる訳でもないので入浴できないこともないが、今回は2カ所を選んで湯に浸かる。

最初は湯畑源泉の千代の湯、そして地蔵源泉の地蔵の湯に入る。どちらも数人でいっぱいになるほどの大きさの浴槽で、観光客や地元民がいれば交流の場になる。今回のこのメンバーはそんな裸の交流はお茶の子さいさいで、いろいろな人たちから情報をもろう。草津が大好きで最近草津に200万円のリゾートマンションを買った人、父娘と名乗るいささか“訳あり”風の2人は毎月来ており、サッカーの指導員で筋肉隆々のおじさんは県内から毎週来ているという。実にいろいろな人が草津温泉に集まってくる。

草津温泉は町全体で泉質主義を貫いており、温泉の効能を維持するため熱くても決して水で薄めない。従ってどの共同浴場も熱いのが相場だ。地蔵の湯は湧出温度52℃で、そのまま浴槽に入れているのだろう、結構熱い。



【共同浴場 地蔵の湯】

大滝の湯という草津町が運営する日帰り入浴施設がある。車で草津に来てここに車を置いて湯畑観光や共同浴場巡り、食事を楽しんで最後にここで入浴するという人たちにはもってこいの施設だ。

ここ大滝の湯には“合わせ湯”と呼ばれる湯がある。浴槽が4つあって高温の浴槽の湯を次の浴槽へ流して徐々に温度を下げていく。それは先ほど見てきた湯畑と同じで、入浴客は自分に合った温度の湯に入ることができるが、この施設では温度が低い一番湯から順に入浴して最後に最も熱い湯に入ることを勧めている。

鳩さんは熱い湯が苦手ということで一番湯、二番湯に入っただけだが、湯上がりの女性陣に聞くと、その勧め通りに入ったと言っている。それも地元のお姉さんに強く勧められて長く浸かっていたというので、彼女たちの顔は赤く火照って、気持ちも興奮しているように感じる。その理由は単なる達成感だけでなく“万病に効く草津温泉”のもたらす効果で、入浴前よりもかなり元気になっている。彼女たちは口をそろえて「この温泉、効くねえー！」と言っている。

内風呂は煮川源泉、露天風呂は万代鉦源泉を使用しているので、私たちはこれで4つの源泉に浸かったことになる。

■高級宿「ホテル櫻井」

今回の旅で草津温泉を熱望したキキちゃんからは「温泉が良ければ安宿でいいよ」というリクエストをもらっていた。草津には格安の宿も多くあるが、今回私は草津の中でもかなり高級な宿「ホテル櫻井」を選んだ。その理由は源泉である。

町役場の温泉課では6つの源泉を管理しているが、温泉課が管理していない独自源泉を持つ宿がある。ホテル櫻井もそのひとつで、私が以前泊った時にここの源泉が抜群に良かった。

高級宿なので宿泊費は高いが、この宿には少しかだけ眺望の悪い“訳あり部屋”があることも知っており、さらに群馬県のコロナ復興支援策の割引制度を使えば2食付きで1万円以下に収まる。



【ホテル櫻井】

私たちは早速館内の大浴場に行き、ホテル櫻井の独自源泉「わたの湯源泉」に浸かる。

それはとにかく“良い”の一言に尽きる。強酸性なのに柔らかく感じる湯でおそらく草津温泉の源泉の中ではピカイチだと私は思っている。鳩さんも至福のひとつときという顔で入浴しており、私に向かって「こんないい湯があるのだね」と言っている。

そういえば大滝の湯の女性スタッフも私たちがホテル櫻井に泊まっていることを伝えると「わたの湯が草津で一番」と言っていた。私がある理由を聞くと「あのような優しい湯は他にない、私は草津っ子だから何でも知っているよ」と胸を張っていたのを思い出した。

女性陣の反応も上々で、「何なのこの温泉の気持ち良さは、とても信じられない」と口をそろえて言っている。



【わたの湯源泉の露天風呂（宿のHPより）】

この宿はわたの湯源泉以外に西の河原源泉と万代鉱源泉を引いている。従ってこれで私たちは役場の温泉課が管理する6つの源泉うち5つの源泉に入り、わたの湯源泉を加えて計6源泉に入ったことになる。当初の目的は数の上では何とか達成されたようだ。

今回入らなかった白旗源泉はまたの来訪に残しておくことにしようと3人は話している。

■夜は楽しい

夕食はバイキング形式で、さすが高級宿で味付けはもちろんのこと素材が良い。サーロインステーキが実に美味い。料理を生業にしているキキちゃんも褒めている。

夕食後はホテル内で草津名物の“湯もみショー”があるので、私たちはそれを見るつもりだったが、食べ終わって部屋に戻ってすぐに飲み会が始まってしまう。

私たちは地球一周の船旅、ピースボートで知り合った仲間なので、まずはその話になる。ピースボートは日本の若者たちに海外を体験してもらおうと始まった船の旅だが、大きく変化している。最近では乗客の約4割が中国人、日本人も若者が極端に少なくなって老人船と化している。

中国人旅行者の行為には顔をしかめる日本人も多い。この4人でさえもそうだ。しかし1000年以上前の中国は世界最先端の国で日本はそこから文化を吸収しようと何回も遣唐使を送った。昔の日本人にとって中国は憧れだった。

その日本人が中国を見る目が変わったのは、私たちの年齢に関係しているのかもしれない。今の50代くらいからずっと上の世代までだろう。その理由は日清戦争で日本が中国に勝った頃から戦後日本の高度成長時代まで、その時期は明らかに日本優位で中国を下に見ていた。

しかし最近の若者たちは少し違うようで、中国は既に大国になっており、経済も技術も日本より上で中国優位にある。それゆえ私の友人の娘などはわざわざ中国に就職している。

ピースボートに乗る限り、いや国際社会を生きていくためには、国の優劣で対応を変えてはいけない。そして日本はいつまでも昔のような一流国ではない。

若者たちは世界を体験して世界との差を感じてもらいたい。日本は30年間給料が上がっておらず、世界の先進国に後れをとっており、もはや一流国でなく、もしかしたら三流国になっている。1000兆円超の借金は国家予算の約10倍、工業力も科学技術もかつての栄光はない。

どうしてこうなったか。議論は尽きない。しかし結論はでない。

では、どうしたらいいか。それは意識改革、やはり教育だろうという結論になる。

米国と戦争したことも知らない日本の若者も多い。これは歴史教育で昭和史をきちんと教えなからで、歴史の授業は古代史から始まって、3学期になって明治維新あたりまできて、「あとは教科書を読んでおけ」で終わってしまう。教科書にも近代史はあまり細かく書かれていない。

一つの結論として、歴史は現代から遡って教えた方が良いということになる。

まず、現状がどうなっているのかを正しく教える。人口、面積、産業、GDP、国家予算、借金、自給率、防衛外交等々を他の国や地域と比較して教える。これが本来の世界の地理の授業になり、この国内版が日本の地理になる。そしてそこから世界史と日本史が始まる。

そして現在のこの状況になった理由、事実を教える。今がこうなっているのはこういうことが過去にあったからで、それはその前にこんな事件があったからという具合だ。

例えば、現在の日本は国連中心主義と日米同盟が外交の基軸だ。ところが国連（国際連合）と日本では訳しているが、原文では **United Nations** つまり連合、それは第二次世界大戦で日本・ドイツ・イタリアなどの枢軸国に対抗して出来た軍事同盟だ。それゆえに国連憲章（正確には連合憲章）には今でも日本などを敵国とする敵国条項が残っている。

どうして日本は枢軸国側に入ったのか。1930年代ヨーロッパはドイツの勢いが凄く、日本はドイツと組むことを選んだ。ヨーロッパはドイツに任せて、日本は大東亜共栄圏を目指した。

大東亜共栄圏とは何か。日本の台頭を良く思わない米国や英国が、日本に対して経済制裁をしてきた。資源のない日本は原材料と市場を確保しないとイケない。しかしアジアは欧米列強が植民地化している。日本がそれを開放しアジアの盟主になるという構想だ。

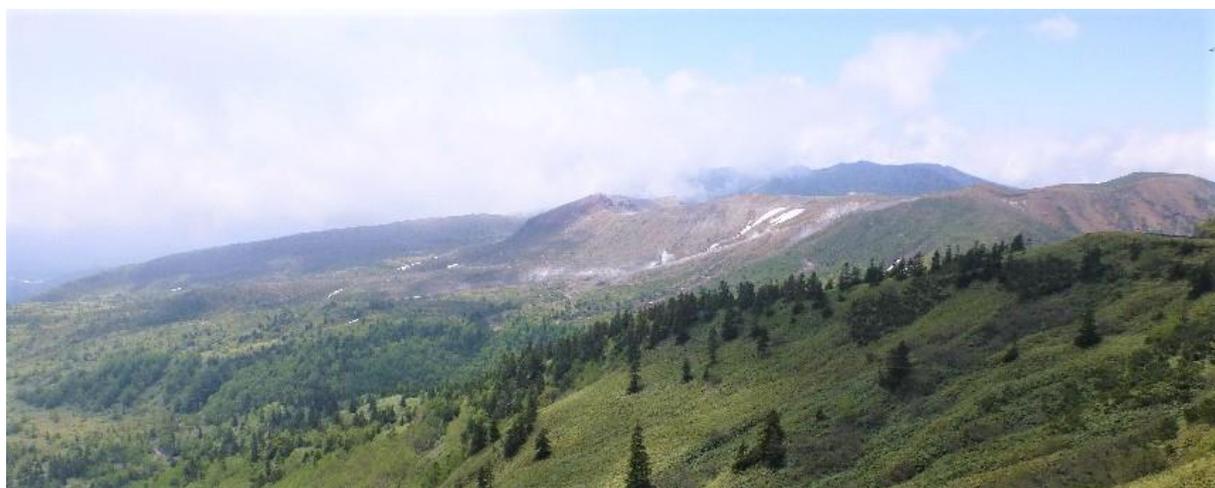
そんな時、疲れたのか夜行バスで来たキキちゃんが寝ている・・・、飲み会はお開きになる。

■草津の周辺

朝風呂にゆっくり浸かり、朝食の時に本日の作戦会議が開かれる。決まったのは草津温泉から長野県との県境につながる志賀草津ルートをドライブすることだ。

噴火の影響で有名な白根山の湯釜は見ることはできないが、このルートには日本の国道の最高地点（標高 2172m）がある。この地点からの眺めは最高なことは知っていたが、そこに行くのを躊躇していた。当初は梅雨空で眺望は望めないと思っていたからだ。しかし偶然にも晴れてきたので思い切って車を走らせる。

白根山の頂上付近には草木は生えておらず、硫黄臭がかなりきつい。雪渓が残っている山腹からは噴煙が上がっている。そして山腹の向うに草津温泉街がかすんで見える。この絶景を見て、女性陣は「こんな良い所に来られて、私たちは本当に幸運よね」と話している。



【国道の最高地点から見る白根山の湯釜と山体】

ここは草津温泉街から 30 分程で来ることができる。私は今回の旅では単に草津の温泉だけ知ってもらおうのではなく、草津温泉のパワーを生み出すバックボーンのようなものも知って欲しくてここに案内した。壮大な白根山の山体の底から草津の湯は湧いている。地球という生命体の一部が草津温泉の湯になって、そこに住む人々に潤いと感動を与えている。

■品木ダム

草津温泉の近くに品木ダムという面白いダムがある。ここも草津温泉のバックボーンとっていいだろう。ダム本体は堤高 44m の重力式ダムで特出したものではないが、このダム湖では凄いことをやっている。

草津温泉は強い酸性の湯で、この付近一帯の川はみな強い酸性になっているので、堰き止められたダム湖の色は温泉のような乳白色がかった緑色になっている。

強酸性は温泉としては良いが、農業用や工業用には利用できず、魚も住めない。少量ならばともかく、このまま強酸性の水を下流に流す訳にはいかない。それほど大量の酸性水が湧き出ている。



【品木ダム】

そこでこのダムでは強酸性の水を中和する作業をしている。中和のためにアルカリ性の石灰を投入して、沈殿物が残るので湖底の沈殿物を重機ですくい出している。

鳩さんが「へえーこんな凄いことをしているのか」と感心して、そして誰かが「このお陰で草津温泉が楽しめる、やっぱり草津温泉は凄い」と言っている。

■野反湖

草津温泉の標高は 1200m、その北には 2000m級の山々に囲まれた周囲 12km、標高 1513m の野反湖（のぞりこ）という大きな湖がある。関東地方の湖や川は太平洋にそそぐのが常識だが、野反湖の湖水はなんと信濃川に合流し日本海にそそいでいる。群馬県の湖が日本海にそそぐとは実に珍しい。

野反湖は鳩さん一押しの湖で、周りの雰囲気スコットランドに似ていると言っている。湖の周辺には、旅館も土産物屋も食堂もなく看板もない。案内所を兼ねた小さなロッジで軽食がとれる程度で、まさしく自然の中にある湖だ。そういった風景が、スコットランドそのものだと鳩さんは力説している。私も含め他の 3 人はスコットランドに行った経験がないが、完全に彼の話を信じ切っている。私が「きっとこの旅行から帰ったら、草津温泉も良かったけれど“群馬のスコットランド”も良かったと自慢するね」と言うと、皆はうなずくばかりだ。

鳩さんは「スコットランドには温泉が無かったけれど、ここは温泉も近い。何て贅沢なことだ」と言っている。誰かが「あとはスコッチウイスキーですか？」と聞くと、鳩さんは「そうね、スコッチ（少し）あればね」と応えた。



【野反湖】

■ 四万温泉「積善館」

草津温泉からひとつ山を越えると四万温泉がある。刺激的な強酸性の草津温泉で湯治をして帰る時に立ち寄るのが四万温泉で、その柔らかい泉質が肌に優しいので草津の“直し湯”として重宝された。その意味では四万温泉も草津温泉のバックボーンのひとつかもしれない。

従って四万温泉の歴史も古い。今宵泊まる「積善館」はその歴史が色濃く残っている。何しろ積善館の本館は重要文化財になっており、その雰囲気から宮崎駿のアニメ映画「千と千尋の神隠し」のモデルだと言われている。もちろん宮崎駿も泊まったことがある。そんなことをメンバーに話すと興味を持ったようで、早速館内ツアーに出かけることになった。

この宿には新館と本館があつて、それらを行き来するための「浪漫のトンネル」がある。あの映画の最初のシーンではトンネルを抜けて過去にタイムスリップするが、近代的な新館に泊まっている宿泊客が、重要文化財の古い本館に入る時にトンネルを抜けるので、宿泊客は必然的にタイムスリップを体験することになる。



【浪漫のトンネル】

本館の入口にある赤い橋は映画の油屋の前の橋そのものだ。この橋と宿の写真を撮るために、多くの観光客がひっきりなしに来ており、順番待ちをするほどだ。若い人たちは早い、年配者は準備、撮影、確認と時間がかかる。

女性陣は「あのおばさんが遅くて」などと愚痴をこぼしている。私は「後ろの若者が同じことを言っているよ」と口に出しかけたが止めた。



【積善館本館と赤い橋】

積善館の「元禄の湯」は私のお気に入りの風呂だ。昔懐かしい感じがする大きな湯殿にはアーチ状の窓があって、床はタイル張りで、浴槽が5つ並んでいる。ひとつの浴槽は2~3人も入ればいっぱいになるサイズで少しずつ温度が違う。

どうしてこんな奇妙な設計にしたのか。いつ来てもその答えは見つからない。しかしこの風呂が入浴客に衝撃や感動を与えているのは確かだ。今も私はこの湯に浸かり“まったり”した幸せな気分になっている。そして今回もその答えを見つけられない。つまりそれは、また来ないといけないことになる。おつと、それが設計の意図なのか。

写真撮影禁止と書かれていたが、誰もいない時に撮った元禄の湯は、また来いよと言っている。



【元禄の湯】

■男と女

積善館の本館は重要文化財なので火が使えず、食事は弁当になっている。洒落た3段重の弁当は食事処で食べてもいいが、勝手知ったる宿なので私たちは部屋に持ち込み、夕食から宴会が始める。昨夜は少しかたい話になったが、今夜は男と女の話だ。

鳩さんは、男は“あれもこれも”女は“あれかこれか”だと言う。男は女を選ぶ時に極端に言う片端から手をつけていく、節操がない。女は一途で1人か2人の男しか選べない。

この話は鳩さんと飲むと良く出てくる話なので聞き流していたが、女性陣は首をかしげて「そのことはないよ」と反発している。それは彼女たち自身の経験もあるが、ピースボートで知り合った彼女たちがよく知る男性のことになった。

その男性は妻帯者だが1人でピースボートに乗船し、船内である女性と知り合った。女性はやり手の経営者でどちらかという“あれもこれも”タイプだという。男性は恋に落ちて乗船中はもちろん船を降りてからも2人の関係が続いた。そして女性から一方的に「あなたとはこれでおしまいよ」と言われて関係は終わった。いや終わりにさせられた。この男性は一途だった。

次は私の持論で、男は過去を振り返るが、女は振り返らない、というものだ。つまり男は懐古主義者だが、女は現実主義者で未来志向だということの意味している。

ここで私が他の3人に、「人生でいつが一番良かったか？」と質問する。すると女性陣は2人とも今が一番だと言う。鳩さんは学生時代やサラリーマン時代は楽しいことがなく、会社を辞めてからの25年間で良かったと言っている。それも今ではなく過去だ。

かく言う私は高校・大学時代、そして入社して若手エンジニアとして活躍していた時代が良かった。ここで“活躍”と言っただけだが、自分が勝手に活躍したと思っただけだろう。私に限らず男は過去を美化したがる。

それゆえ先ほどの話で振られた男性は、昔のことが忘れられずに2匹目3匹目のドジョウを求めてピースボートに何回も乗ったという。

飲み会は続く。今夜は酒の量も多い。

旅仲間なので最後は“これから行きたい旅”の話になる。みんなもう一度ピースボートに乗りたいと言っているが、コロナで当面は国内旅行しか行けない。

キキちゃんは島の旅それも奄美群島に行きたいと言っている。さらに今回の温泉旅に刺激されて関東以北の温泉を極めたいとも言っている。

ミッチちゃんは歩き旅や山登りが好きだから、小豆島をお遍路で歩き旅をしたいと言っている。私も行ったが、島一周は約140km、山岳地にある寺からは瀬戸内海の眺望が抜群だ。

鳩さんは現在鉄道旅に明け暮れており、鉄印集めをしている。それが終わったら小笠原諸島や五島列島に行きたいと言っている。

そして私は、秋になったら岡山の旬の食材が美味しいから、キキちゃんの料理でまた一杯やりたいと言うと、全員が「今年の秋に岡山で再会だね」と言って飲み会はお開きになる。

私たちの旅も終わる。皆は満足感いっぱいの表情を見せながらも、まだ興奮しているようだ。

■温泉評価委員会

私は温泉宿を評価する温泉評価委員会、通称「おひょい」を立ち上げている。それは温泉宿に泊まった時に組織される勝手気ままな委員会で、委員は同行した人になる。ただし今回は諸事情で私だけの評価になった。

評価の基準は、5は驚き感動、4は普通に良い、3は可もなく不可もない、2は普通に悪い、そして1は失望落胆としている。

草津温泉「ホテル櫻井」は泉質 5、風呂 4、料理 4、コスパ 5、サービス 4、建物・部屋 4、立地環境 4、総合点 4.29 になった。

わたの湯源泉の泉質は酸性-アルミニウム-硫酸塩-塩化物泉（低張性強酸高温泉）、pH は 2.1、湧出温度は 50.2℃となっている。

四万温泉「積善館」は泉質 4、風呂 5、料理 3、コスパ 5、サービス 3、建物・部屋 5、立地環境 4、総合点 4.14 になった。

泉質はナトリウム-カルシウム塩化物硫酸塩温泉、pH は 6.6、湧出温度は 77℃となっている。

■旅の記録

旅行は 2022 年 6 月 21 日（火）～6 月 23 日（木）の 2 泊 3 日で実施し、行程を以下に記す。尚、本文中の順番と一部異なる部分があるが、この記録の方が正しい。

- ・ 1 日目 8 時 30 分に分倍河原駅集合、こんにやくパーク、北軽井沢草軽電鉄駅舎
14 時草津温泉「ホテル櫻井」チェックイン、温泉街散策で荻原商店、湯畑を見物、千代の湯と地蔵の湯に入浴、西の河原大露天風呂に行くが休館で断念
- ・ 2 日目 9 時 30 分宿を出発、草津白根山へドライブ、大滝の湯で入浴と昼食、品木ダム経由で野反湖を見物、16 時四万温泉「積善館」チェックイン
- ・ 3 日目 10 時宿出発、12 時高崎駅で 1 名下車、深谷の渋沢栄一記念館と生家（中の家）見学、深谷駅で 1 名下車、高尾山口で解散

費用は 1 人当たり約 2 万 4 千円、内訳を以下に示す。

- ・ 宿泊費 ホテル櫻井 9900 円（4 人分の合計 49607 円：1 泊 2 食料金 12400 円＋入湯税、
県民割で 1 人 2500 円の割引）
積善館 8200 円（4 人分の合計 32800 円：1 泊 2 食料金 8800 円＋入湯税、
県民割で 1 人 750 円の割引）
- ・ 昼食など食費 約 3000 円（草津の昼食、大滝の湯、酒・つまみなど）
- ・ 交通費 約 3000 円（高速道路とガソリン代を 4 で割った費用）